

## 教員とのコミュニケーションを大切にした校内別室登校

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、人の目を極端に気にしてしまい、集団への恐怖感や、ストレス・不安感が強いことで体調不良が続き、教室に入れないことが増えた。不登校担当教員を中心に校内別室を開設したことにより、生徒のペースに合わせた登校や個別の学習指導を行い、居場所を作った。

### 具体的な取組

#### ○校内での情報共有

週1回の生活指導部会で、支援会議を実施している。SCや外部機関も参加を促し、不登校生徒の状況や支援状況について協議、校内体制の見直しを行っている。協議内容については、必ず校内に周知し、統一した指導ができる体制を作っている。

#### ○魅力のある学校づくりの推進

総合質問紙調査の結果を活用して、校内研修を行っている。「自己肯定感」や「学級適応感」の分布から居心地の良い学級集団の特徴を把握し、教員同士で情報共有することによって、生徒の様々な価値観を受容できる魅力ある学級づくりにつなげている。

#### ○校内別室の活用

不登校生徒の居場所として、校内別室を開設している。教員が交代で担当しながら生徒とのコミュニケーションを図り、安心して登校できるよう支援している。



#### ○関係機関との連携

SCと当該生徒を積極的につなぎ、不安解消のための支援を行っている。また、保護者のメンタルケアが必要な場合もあるため、情報を集約しながら、関係機関につなげている。面談内容については、当日中に担任と不登校担当教員に共有している。

### 成果

継続的に支援を行ったことで、校内別室の利用に加えて、少しずつ教室に入り、授業を受けることができるようになった。また、日頃からの担任の関わり、保護者との連携、SCとの面談など、それぞれが役割分担をしながら対応できた。

### 課題

校内別室の開設日を増やし、登校日数を増やせるようにすることや、生徒の状況に応じた入室時間の設定を検討していきたい。